

らららん20号



2020. 3. 12

卒園するみなさんへ

5歳児のみなさん、あと少しで卒園になりましたね。みなさんは、どんな気持ちですか？「卒園したくない」とか「小学校が楽しみ」とか、この時期になるといろいろな複雑になると思います。いろいろなことが変わると、不安になるものです。でも、こんなときは「いさぎよさ」が大切です。「いさぎよさ」って、わからないかもしれませんね。意味は「ものごとにこだわらず、思い切りがよいこと」です。くよくよしても仕方がないのです。「新しいことってどんなことだろう。おもしろそう」くらいの気持ちがちょうどいいのです。



小学校の先生は、いろいろな先生がいます。勉強の教え方や宿題の出し方、生活の指導など少しずつ違うし、それに先生の性格もみんな違ってきます。だから、私は思うのです。高学年になっていくと、いろいろな先生に担任してもらうことで、先生が大切にしていることや、きちんと教えたことが分かってきます。子どもたちによっては、先生の好き嫌いが出てきますが、その先生なりのいいところはみんな持っていることがわかります。そのいいところを自分も身に付けてみようと思えば、充実した一年を過ごせると思います。だから心配する必要はないのです。もしも、いやなことがあれば、そんなことをあなたが友だちや弟、妹に絶対にしないことです。いやだったことを、他の人にすることほど情けないことはありません。

園長先生が大切なことを一つ言います。それは、人の話をよく聞くことです。「絶対に聞き漏らさないぞ」と集中して聞くことが大切です。だんだん慣れてくると「ああ、知ってる」とか「これから、こうなるよ」とか話したくなってしまうのです。すると、聞く姿勢が崩れてしまい、全部の話の内容が頭に入りません。みなさんは自分がどんなタイプだということも、だいたいわかりますか。よく聞くことができる人は、今後もこの調子で頑張ってください。また、ときどき聞き漏らすことがある人は「いつも自分はそんなところがあるから気をつけないと」ということを心に刻んでおきましょう。

また、さきほどふれた「いさぎよい」は、先生に聞かれたり、友だちと話をしたりするとき、自分の考えを「こう思う」とはっきり声に出すことにもつながります。でも、わからないときは「わかりません」でいいし、「もう少し時間がほしいです」でもいいと思います。

どの学校も幼稚園より運動場が広く、どんどん運動ができます。しっかりと汗をかいて遊び込むのは楽しいですよ。また、日課が決まって、勉強することが生活の中心になってきます。この勉強については、やることがたくさんあるって落ち込まないで、新しく知る

ことがたくさんあると前向きにとらえてほしいと思います。幼稚園でやってきた自分たちでわかるようにしたこととか、こんな工夫をしたらどうなるだろうとかは、小学校でもきつと役に立つと思っています。自信をもって前に進んでください。

卒園するみなさん全員に、明るい未来があります。学校で起こるいろいろなことをしっかり楽しんでほしいと思います。

進級するみなさんへ

乳児部のみなさん、それから3歳児と4歳児のみなさんは、それぞれひとつ上のクラスに変わります。それは、卒園するみなさんと同じように大きなこととなります。中には乳児部から幼児部へ変わる人もいます。3歳児から4歳児になる人は、2階の部屋になり階段を何度も使うようになります。



それぞれ、これまでと違う先生だったり、部屋だったりして新しい環境になるわけです。新しい友だちや先生と一緒に遊んだり過ごしたりすることで、仲良くすることを覚えてほしいと思います。そのためには思いやりのある言葉使いが大切です。相手にいやな気持ちにさせない工夫がいるでしょう。

「ねえ、入れて」と言われたとき「だめ～」と答えることは簡単なことです。しかし、これでは、相手をいやな気持ちにさせてしまいます。「今ね、やっているところだから、終わったら入れてあげるね。ちょっと待ってね」というような相手を思いやる話し言葉が身に付けば、これらが書き言葉の基礎になるので、ていねいに説明できる話し方はとても大切です。友だちや先生と仲良く活動することで、思いやりのある話し言葉が自然に身に付くことを願っています。

孫の旅立ち

高校を卒業して一年間バイトをしていた孫が、今年になって関東の街で生活すると宣言した。彼は高校生のときに、バンドでベースギターをやっていた。将来はプロになりたいと、よく話していた。その話を聞いたときに「よく考えろ」「簡単にプロにはなれない」と話した。「上手な人はたくさんいるのだから、競争は激しいよ。その前に自分のやりたい仕事を考え、資格を取るべきだ」と話した。しかし、彼は自分の夢を抱き続けていた。これまでのバイトは向こうで生活するための資金づくりだった。同じバンド仲間が生活しているアパートに同居させてもらうようだ。すでに新しいバイトも決め、生活設計も出来ているらしい。



心配し始めたらしきりがない。しかし、前に進みたいと思う彼を応援もしてやりたい。飛び出していける決断力が若さかもしれない。新型コロナウイルスが、気になり出した2月初めに、旅立っていった。